

風土記の丘の花だより³²³

今、そしてこれから見られる植物(2026年5月30日)

最近とても少なくなってきた、みんなで見守ってきたササユリが先日、何者かによって切り取られたという話を来園者の方から聞きました。腹が立つと同時に、「まだそんなことをする人がいるのか」と呆れてしまいました。どうしてそんなことができるのでしょうか。私は現場を見ていませんが、それを目の当たりにされた方は、さぞ悲しかったことでしょう。



ハルジオンはすっかり見られなくなり、かわりにヒメジョオンがたくさん咲いています。ハルジオンは茎がまっすぐ伸びて咲く感じですが、ヒメジョオンは先の方でパッと開いたような感じに咲きます。名前も姿もとても良く似た両者なので、毎年花だよりで紹介しているように思います。どちらも外国からやって来た帰化植物ですが、もうすっかり日本の花のようになってしまっています。なぜか、今年は両者が同時に咲くタイミングはほとんどありませんでしたね。



足もとにたくさん咲いている黄色くて小さな花は、コモチマンネングサです。星のような、花火のような形の花ですね。コモチとは「子持ち」のことで、茎の所々に小さな、むかごというか、芽とうか、とにかく「こども」をもっているのです。こんな名前です。マンネングサは、すでにお分かりと思いますが「万年草」で、なかなか枯れない、萎れないということから付いた名前です。標本にするために乾燥させようとしても、なかなか水分が抜けません、たしかに万年草です。ベンケイソウ科という仲間の草です。



園路の入り口から坂を上ると間もなく左側にきれいな黄色い花が咲いています。オトギリソウ科のキンシバイの花です。漢字で書くと「金糸梅」5枚の花びらを梅に、たくさんの雄しべを金の糸に見立てた名前です。江戸時代に中国から伝わった花木で、庭などに植えられ人々に親しまれてきました。それで、いくつかの園芸品種があるそうですが、私には詳しい区別はできませんので、こんな感じの花は、まとめて「キンシバイ」としています。ご了承ください。



オカトラノオが咲きました。写真はまだまだ咲き始めなので、花が少ないですが、これをご覧になるころにはもっと花数が増えて見事な「虎の尾」になっていることでしょう。何とも言えない絶妙なカーブを描いていますね。今年は毛虫が多く発生し、この草やユリの茎やつぼみを食べまくっています。それで昨年ほども咲かないかもしれませんが、ササユリのように、人ではなく虫がすることですから、それはそれでいいという気持ちで静かに眺めています。 松下